科学研究費助成事業 研究成果報告書



平成 26 年 6月19日現在

機関番号: 22701 研究種目:基盤研究(C) 研究期間:2011~2013

課題番号: 23593423

研究課題名(和文)訪問看護ステーションの管理運営指標の開発

研究課題名(英文) Development of indicator for management in visiting nurse stations.

研究代表者

叶谷 由佳 (KANOYA, Yuka)

横浜市立大学・医学部・教授

研究者番号:80313253

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 3,800,000円、(間接経費) 1,140,000円

研究成果の概要(和文):ステーション管理者へのインタビュー調査の結果と文献レビューにより抽出された先行研究をもとに訪問看護ステーションの運営管理の定義を定め、管理運営指標を作成した。指標は、経営理念、計画、組織化、指示、評価調整の要素で構成し、これらの要素として何をすべきかの項目を検討していった。その際に、経営理念の達成、経営上黒字となること、スタッフの自己実現、利用者・地域のニーズの充足を意識した項目を設定すること、それらの目指すべき方向性を達成するために、何をすべきかを踏まえた記述とすることとし、各項目をしているかどうかのチェック方式の指標とした。また、どのように行うかのガイドも作成した。

研究成果の概要(英文): The indicator for management in visiting nurse stations was developed after deciding the definition of management in visiting nurse stations based on interview for station managers and previous studies extracted by review. The indicators was structured by factors of management vision, plan, organization, direction and evaluation/coordination. We considered items to do as these factors. The items were statements to do toward achievement of management vision, surplus on business, realizing of staffs' a ims, filling needs of clients and communities. The indicator was check system whether do or don't toward these directions. It was also developed the guide that contained how to do with the indicator.

研究分野: 医歯薬学

科研費の分科・細目: 看護学・地域・老年看護学

キーワード: 訪問看護

1.研究開始当初の背景

厚生労働省老健局の「2015 年の高齢者介護」の調査では、「現在の在宅にそのまま住み続けたい」と願う高齢者が約6割おり、国は在宅医療を推進している。そのため、在宅医療分野においてステーションの存在は重要である。しかし、ステーション新設件数は平成12年度を境に微増傾向にあり、新ゴールドプランの設置目標である9,900ヵ所にいまだ達成していない。

近年、ステーション数の伸び悩みについて の諸問題が明らかにされ始めている。一方、 経営能力の高さや経営の多角化等により、安 定的な経営と事業の拡大で成功しているス テーションも存在する。また、ステーション のコンサルテーション事業に取り組んでい る日本訪問看護振興財団は、運営課題解決を 意識的に管理業務として実施できれば、多く のステーションは経営改善することができ ると報告している。さらに、成功しているス テーションは管理者が経営学を学び、経営戦 略を立てて実行しており、ステーション運営 の成功は管理者の経営能力に関係している との研究報告もある。このことから、ステー ション管理者が運営に対する知識や技術を 修得することによって、ステーションの運営 は改善されると考える。

しかし、ステーション管理者は、さまざま な経験・経歴をもった看護職が勤めており、 管理能力にはばらつきが大きく、管理業務の 経験がなくステーション管理者になる人が 7 割を占めていることが指摘されているまた、 小規模経営が多く、管理者が研修等を受ける 余裕のない場合が非常に多い。そこで、ステ ーション管理者が効果的なステーション運 営を行うにあたって、簡便に自身の管理業務 について振り返ることができ、運営の参考と なる指標を開発する必要がある。訪問看護に 関する指標については、現在までに訪問看護 の質を保証するという視点より、The Outcome Assessment Information Set-The Outcome Based Quality Improvement (OASIS-OBQI), 質評価のためのガイドライン、高齢者対象の 訪問看護の質指標が開発されているが、管理 運営に関する学術的に検証された指標はな

い。看護管理の指標では、Management Index for Nurses ver2 (MaIN2)が開発されているが、ステーション運営に重要である経営的視点が不足している。国外においても、成功的な運営を行っている home care agency を運営している管理者の特徴を明らかにする研究はあるが管理運営の指標についての研究はあるが管理運営の指標についての研究はない。

2.研究の目的

ステーション管理者が簡便に自身の管理 業務をふり返ることができ、それを元に効果 的なステーション運営ができるような管理 運営指標を開発することである。

3.研究の方法

ステーションの管理運営指標を開発するために、 ステーション管理者インタビューや 文献レビューや等により枠組を明らかにし、その後、専門家との協議をとおして管理運営指標の具体的内容を明らかにし、管理運営指標を開発する。

4.研究成果

(1)ステーション管理者インタビュー調査 A県内で訪問看護ステーション5社、介護 事業所9社を起業した看護職者を対象とし、 起業体験について半構成的面接を行った。 その結果、訪問看護ステーションの3社は 複数の看護職で共同起業しており、借入金 をせず小規模で自由な展開ができる一方、 経営面の苦労をしていたことがわかった。 訪問看護ステーション、介護事業所とも親 族と起業している者は、多角経営で利用者 拡大等の有利な面があるが、土地建物の確 保、職員確保、育成の面で苦労していた。 看護職の起業者は、医療面の強みを生かし、 看護を全面に出した運営をしていたが、経 営や制度面の知識不足で苦労していたこと がわかった(表 2-1、2-2)。結果より、訪 問看護ステーションの管理運営指標は、経 営面の知識、職員確保、職員育成、制度の 知識を網羅した内容とする必要性があると 思われた。

食物の分 を食の後	約四個後(3社)			
	共國和華(3社)		機能-化業(2社)	
er ne	解除(件)	\$#(2\$E)	李备 (武行)	
起業の動詞	条約1対回接接がしたい (発射1対に1対対接接やおたいな。自分を ものイースでできることが10分と思って) (として)101自分をものやがたいとうこかもうと (うちの)	いたい書類がいたい。 (目標に在れたアだった、そので在右の楽者を せてあげたい。 (在右の書類など、今のは必要でないかというの かけまるもったです)	対象でできなかった景景がしたい (対象を対かさから)の単さが成で生きかいを持て (大きな)から (手を振っては終して・・・、それが実施ではなかった 人です)	
	利用をおおれるでいたい (連合などを対し合っていたいと思うと呼ばる 出版がないているないに、対象を検えといい のかなど思って)	色線に開発した。 接続に開発したが、今点様ながあって) (特定で開発してかからそれをあかして絶域で 何かは単独しできたらしてなど思って)	対理事務があればきもつかられる (ポルサービスにおいないかが開催に対理事態) が悪い表して (まれて書きこと対理事態があれば、いのつとない かなある	
		関係する政府を終えて一く920円を担け (近くの事業所では関係を終ますっていり終こか 以えなったが後半が、というなで引き受け出した うという経済が残って、	在主要検工関心があった。 (の年後・興味工規模してで何かかいた。など在宅制 接工関心があったとった) (明味現象の時、労士工・たとった・ど利用者の決 が見る工規論が強っているとうが)	
于 決	自分の方針ですきる したもの過速の一部門だったのが特徴と一会 はつかかられいですかられ、実践とか、それ と大きいできたれ、 実践と対象ないこととか、金銭とかそから	典を触がある。 (病性のものでも変更できる立場がからかりま いですね。 (病性素) という複雑性自分がもつ他って行ける	ん、良かったなアップ)	
起業のメリ	● 開催の職業ができる	事業と対象の重力ができる。 (1 人の会を含むされる。ペーと書類を含むさない。 るのますでいかりゃら(あると思う)。 (一種の意義の下立いたり、単に方式で対象を書類。できるのではないから。)	表表映画が表ができる (表表)が経済といる意思して4度ではいってきると このできかね。 (世紀して4月四年がいたことでき、一緒に前続的 技術では4月四年が	
P .	● 動きはから無い情報が得られる は問題後の本とか、除金とか無いこととか 事業が得って(るから)	事項を応し特定品に参加しない (数以会いを終って編している)	製造的な人に登録したというがない 「一緒に設定した時間が集まって任るので飲かします。私のようを責まれているのは製造機の求人に 参加したとうがないことです。	
	運動を全がなけらられる場合をなれた (対象機関となり発生ですかられたっている のは (自分からの機能がななって)発動しから最初 から終れた窓ので)	運動機会のなけ (政会のなけい・20月分のよう数数を入いた (表の表的) 別式会会 海豚会会のなけれ	経営の教学、制度の推議不足 (制度の起議不足で共変もあった。経営の無数で かた) (制度におきらわないで、から発達を対して、やけ から保証上載とられないで、から発達を対して、やけ から保証上載とで、経営の起議不足行。)	
労したこと	関係学校を関わてきまいのかなかった (金柱のたけ方像・で、数量が関係学校を、 自分化でして、いるとなんの解像・で・・何 なって関係がなったかの	事務員を置えなかった (事務費員のこと人権員がかめるは) (事務事務が知ったとできているのかでき、優別 (知の事務が知ったとできているのかでき、優別	国際自然関係で利用を認定であった (国際自然を受けったです) (対策されたもんだ・関係ではたの。でももうまれ もない)	
	製造を誘致であせない。 (表現感染なくでおせないですと、) 自住の語 終付ってやり()して、か方とかは自なら続と か()	利用きの経過的な意思が失きい の確認っていいと動われて4利用きの意思を になると は問題的と単編が強いので行うとチャケの多 をなってき)	中方物件に対象がたま (中方物件で対象にないたいけない関係がらたから) 指な対象があってに載って・・・)	

	表2-2 起業形態・経営形態別 起業の動機、看護業起業のメリット、 苦労したこと			
事業区分	介護事業所(9社)			
经票形据	類旅/紀集(821)	一人纪章(1計)		
年實形線	多角 (数t)	里独(1計)		
	ケアマネの貨船をとって、ケアマネ素駅に従事して (付護の方に行きたなりナアマネの貨船が実にた)。 (信宅のケアマネをやっていると自宅での継続に限界が あるのも見えてきたんですね)。	病気をして者摂棄剤は無理 (病気をして者摂棄! おだめだなあと思って)		
起業の 動機	介護・福祉・在宅標業支援に実味があって (もとも福祉に実験があって、その道に進めなかったと いうのがあって) (福祉の仕事に動いていた。頃在宅ってこうゆうところか あって、貴重な仕事なんだなあと気が含ました)	ケアマネの業務に従事して (ケアマネの仕事はしていた)		
	在電介機をやりない (単級で自分の対容なように要するにやりないと) (在窓でその人もしい生活を支援して行くというが理念を 持ってきます)	じっくり1人一人と向き会いだい (じっくり一人一人と向き会えたらいいかなあ)		
者 抵	医療者だから信頼される (医療の知識があるからも影響されますね) (健康の知識があるを見けているので医療者としての調察 力、判断力が身についていることですね)	がん末期の人のケアブランが作成で る (管護師ということで、傷末期とかそう う方が多いです)		
起業のメリ	医師との関係がスムース (先生との軟器の裏さがないですね) (医師との関係があるとして、で重傷者の受け入れ、表面 の対応もできますね) (ネットワークがありますね)	利用者が何でも相談してくれる (何でも相談して下さることですね)		
» Ь	介護職の教育ができる (看護機に着競りの外語がす道もあるけど、私はこうい 予道に入って介護機を教育し特殊して医療部にも協力し てもらえるようにと思っています)。	ターミナルの人のケアブランが作れる (病院の方でもがん来劇で一時的に 帰るようにしているみたいで・・・。ひと も棒たないという人もいます)		
音步	資金額505大変 (環接を増えて開設するけど、介護研製は20月後次ので その辺の資金額505%、収集をもの人単位であると大き いもんが、 (付護研製220月後ですし賃金も原名でいて配賃を受け あにも実践も信用もないし乗り超えられるかと思いまし た)			
たこと	スタンで選集・スタンで教育 (終めるよういました。大きな無数とせべて合わないと) (終めるよういました。大きな無数質でしょうね。いるいるな レベルを)接すから) 中有物件の言葉 (連動)は中有物件なので使い概率が悪く音がしました)	活動が制限される (体外の日でも会議中でも電話が気! なる) (研修に出られない) 書類が振進 (法人化とか会社設立とか書類が振移 (報告とか機構をか)		

(2)ステーションの管理運営指標に関する 文献レビュー

平成23年10月1日現在、医学中央雑誌Webで各キーワードに対して抽出された文献は、【訪問看護】×【質評価】14件、【訪問看護】×【質保証】3件であった。以上の33件および在宅ケア関連の書籍、MEDLINEを検討した結果、訪問看護の質の評価あるいは質の保証に関する指標は9種類であった。対象者に看護を提供することにより生じる状態の変化を客観的に評価し、その結果を質の評価とする意図で開発されたMinimum Data Set-Home CareやOutcome Assessment Information Setがあった。また、提供する看護の質の保証のために開発された

高齢者訪問看護の質指標や在宅療養支援のための医療処置管理看護プロトコールがあった。さらに、時代のニーズに対応した訪問看護の質の保証と経営の安定を図っていくために、訪問看護機関・施設の機能評価と訪問看護サービスの2つの視点から評価できる訪問看護サービス質評価のためのガイドラインがあった。この結果より、訪問看護の質あるいは質の評価に関しての考え方や評価方法の特徴は、提供した看護技術の質の評価や質の保証に焦点があてられており、提供する看護の基盤となる訪問看護事業の管理運営に関して学術的に検証されたものはなかった。

(3)ステーションの管理運営指標の開発 現在、公表されているもので訪問看護ステーションの管理運営指標の参考になるもの をもとに共同研究者間で議論しながら、新た な指標について検討した。参考にしたものは、

訪問看護の質保証と経営の安定を図って いくために開発された訪問看護サービス質 評価のためのガイドライン、 看護管理の指 標である Management Index for Nurses ver2 訪問看護ステーションにおける (MaIN2) 安定的な経営管理のための自己評価尺度で あった。 については、A 訪問看護機関・施 設の機能評価とB訪問看護サービスの評価の 2部構成となっており、A を参考にした。こ れは、全 60 項目あり、運営理念・組織、経 営・人事・労務管理、看護サービスの運営基 準、感染管理、事故・緊急対策、記録・情報 管理、教育・研修・研究、連携の大きく8要 素に分かれている。項目の特徴としては、そ れぞれの要素についてのすべきことを尋ね、 「できている」から「該当しない」までの4 段階で自己評価する内容となっている。に ついては、計画、動機づけ、教育、コミュニ ケーション、組織、アウトカムの6つの要素 に対し、45項目で自己評価するようになって おり、実施している、あるいは、アウトカム の状況のレベルを5段階で評価する内容とな

については、尺度開発した結果、 っている。 快適な職場環境の形成、資金の管理、サービ スの拡充、利益の確保、生産性の向上、看護 の質保証、市場調査の7下位尺度、25項目が 開発されている。この尺度も、項目の内容は 行うべき内容が記述され、「いつもそうして いる」から「ほとんどそうしていない」まで の4段階で評価するという特徴がある。3つ の特徴として、何をしているかという「する べきこと」は明記されており、それらをして いる頻度あるいは、実施しているレベルを段 階的に設定し、それらから選択する自己評価 方式となっていることが共通していた。また、 するべき内容は記述されているが、何を目指 してどのように、行っているのかを尋ねるよ うな項目が含まれていないことが明らかと なった。そこで、看護管理の定義、訪問看護 の法律等を踏まえ、訪問看護ステーションの 運営管理を「住み慣れた場所でその人がその 人らしく在宅療養が営め、利用者の視点に立 った質の高い看護を提供するために、明確な 経営理念を設定し、それに基づき、計画し、 組織化し、指示し、評価し、調整するという 管理業務を確実に運営すること」と定義した。 そのため、指標は、経営理念、計画、組織化、 指示、評価調整の要素で構成し、これらの要 素として何をすべきかの項目を検討してい った。その際に、経営理念の達成、経営上黒 字となること、スタッフの自己実現、利用 者・地域のニーズの充足を意識した項目を設 定すること、それらの目指すべき方向性を達 成するために、どのように行っているかを踏 まえた記述とすることとし、各項目をしてい るかどうかのチェック方式の指標とした。ま た、それらの何をすべきかの後ろにどのよう に行うかの参考になるガイドを付けた指標 とすることが、よいのではないかと考えた。 そのことにより、すでに実施できている人に ついては、目指すべき方向性に向けて実施し ているかどうかの確認ができ、それらをどの

ように行ってよいかどうかわからない人に ついては、後ろにつけたガイドを参考にする ことにより、行うべき内容ができる指標とな ると思われる。

5 . 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に は下線)

〔雑誌論文〕(計0件)

[学会発表](計3件)

荒井幸子、細谷たき子、大竹まり子、小林淳子、森鍵祐子、叶谷由佳:看護職が起業した在宅介護関連事業所の起業形態とその経緯に関する研究、第 18 回日本在宅ケア学会学術集会、2013.3.15-16、東京

荒井幸子,大竹まり子,細谷たき子,森鍵 <u>祐子</u>,小林淳子,叶谷由佳:看護職による訪問看護ステーション起業の経緯に関する研究、第 71 回日本公衆衛生学会総会、2012.10.26、山口

藤井千里、大竹まり子、森鍵祐子、鈴木育子、細谷たき子、小林淳子、叶谷由佳:訪問看護の質の向上のための指標に関する文献的考察、第16回日本在宅ケア学会学術集会、2012.3.18、東京

[図書](計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称: 発明者: 権類: 種号:

出願年月日: 国内外の別:

取得状況(計 0件)

名称: 発明者: 権利者: 種類: 番号: 取得年月日: 国内外の別:

【その他】ホームページ等特になし6.研究組織(1)研究代表者叶谷由佳(KANOYA, Yuka)

横浜市立大学・医学部・教授 研究者番号:80313253

(2)研究分担者

大竹まり子(OTAKE, Mariko) 山形大学・医学部・准教授 研究者番号: 40333984

森鍵祐子 (MORIKAGI, Yuko) 山形大学・医学部・助教 研究者番号: 20431596

鈴木育子(SUZUKI, Ikuko) 山形大学・医学部・准教授 研究者番号: 20261703

細谷たき子 (HOSOYA, Takiko) 山形大学・医学部・教授 研究者番号: 80313740

小林淳子 (KOBAYASHI, Atsuko) 山形大学・医学部・教授 研究者番号: 30250806